



みどりの風

No.91 令和6年6月1日発行

発行 医療法人社団康久会 介護老人保健施設グリーンワフ東戸塚 広報委員会
〒244-0805 横浜市戸塚区川上町151番地 TEL 045(827)1141 FAX 045(827)1294
<http://www.greenwharf.com/>



グリーンワフ
つつじ
祭り



いろとりどりの花が咲き始めるこの季節は リハビリで外に出る機会が増えます

例年より2週間ほど開花が遅く、ゆっくりと咲いた今年の桜。
開花と同時に天気予報に悪い日が続く、天気予報とにらみあい
状態でしたが、晴れた日に桜を楽しむことができました。



今年はお茶とお菓子を用意して、青空と桜をゆっくりと眺め、
ご利用者の皆様には春のひと時を楽しんでいただきました。



新入職員を迎えました

今年度は4名の新しい職員を迎えました。どうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーション部
作業療法士

介護部 3階配属
介護福祉士

介護部 3階配属
介護福祉士

介護部 2階配属
介護福祉士



Answer

- 1.横浜
- 2.たまご
- 3.唯我独尊

Answer

- 1.横浜
- 2.豚の生姜焼き
- 3.臥薪嘗胆



- Answer
- 1.秦野
 - 2.ぶどう
 - 3.一期一会

Question

- 1.出身地
- 2.好きな食べ物
- 3.好きな四字熟語



Answer

- 1.横浜
- 2.おにぎり
- 3.日進月歩



デイケア 麻雀・囲碁・将棋 参加者募集中！



白熱の対戦



デイケアでは参加者を募り、おやつ後に麻雀が始まります。性別問わず参加可能！一度でも麻雀をやったことがある方、きっと手が覚えています。是非、ご参加をお待ちしています。



参加者募集中



認知症と高次脳機能障害

リハビリテーション部 作業療法士 三嶋

『高次脳機能障害』とは？ 聞いたことはあるけども…

人間は目(視覚)、耳(聴覚)、口(味覚)、触る(触覚)から刺激を受け、脳にその情報を送っています。脳は送られた色々な刺激を知覚し、言葉に置き換えたり、学習します。また更に脳は記憶した知識や経験から、判断を下したりもします。このような脳の精神機能(高い次元の脳機能)のことを「高次脳機能」と言います。

『高次脳機能障害』は、脳卒中(血管が切れたり詰まったり)や、脳外傷(傷つけられたり圧迫されたり)、脳炎および脳症(炎症を起こしたり酸素不足になったり)などで、高次脳機能が破綻されて現れる症状のこと。その症状は、脳の損傷部位によって、様々な症状を引き起こします。

脳の損傷部位	引き起こす主な症状(高次脳機能障害)
右脳	左半側空間無視 (視野的な問題ないが)左側に意識が向かず、左側のものが認識できない 等
左脳	失語症 理解しているけど言葉がでない 等
脳が広範囲	注意障害 集中して取り組めない、同時進行ができない 等
脳の両側(側頭葉)	地誌的障害 よく知っている道で迷ったり、新しい道順を覚えられない 等
脳の前(前頭葉)	行動と情緒の障害 感情コントロールができない、意欲がない、状況に適した行動がとれない 等
脳のてっぺん(頭頂葉)	失行症 歯磨きや食事など、次に何をすればよいかわからず進まない状態
脳の後ろ(後頭葉)	失認症 視覚、聴覚、触覚の機能に問題ないが、それが何であるかわからない状態
脳の中にある海馬	記憶障害 見たり聞いたりしたことを覚え、保ち、思い出すことが困難な状態



右脳の損傷で失語症が出る場合もあったり、症状が重なり合うことも多かったり、これ以外にも様々な高次脳機能障害が出現したりします。脳は複雑に出来ており、分からないことも多いのです。

もしご家族が高次脳機能障害を発症してしまったら、【どのような問題が生じるのか】、また【どのような支援が大事なのか】、について連載していきたいと思います。

『高次脳機能障害』と『認知症』の定義の違い

高次脳機能障害は脳損傷によって生じる症状であり、認知症は加齢に伴う進行性の疾患(アルツハイマー病、ピック病など)による症状です。発生機序が異なるだけで、『高次脳機能障害』も『認知症』も、記憶障害や注意障害など起きる症状が同じになることがあります。

(参考知識)

脳梗塞や脳出血が原因で脳の機能が低下していく脳血管性認知症の場合は、障害された部位によって症状の出方が違ってきます。記憶力が低下していても、理解力や判断力、人格は保たれていることもあるのが特徴的です。例えば、脳梗塞発症の前のことはよく覚えていますが、脳梗塞発症後に起こったことを覚えていられなくなったりします。

認知症ケアプロジェクト委員会 発足！

グリーンワーフの療養棟では創設当初より認知症専門棟があり、グルーピングなど専門棟ならではの様々な認知症ケアに取り組んできました。しかし、一般棟にも認知症を抱えるご利用者様が多く居るため、経験の浅い職員によっては対応への不安や疑問を感じている人もいました。また一般棟の認知症ではないご利用者様とのトラブル等もあり、その際の対応についても課題がありました。そこで、以前外部研修を受けたユマニチュードの技法を参考にした施設独自の認知症ケアを導入し、ご利用者様一人ひとりが安心して施設生活を送れるような認知症ケアを取り入れることを目的としたプロジェクトを発足しました。



プロジェクト委員長

お買い物をしてティータイムの準備

1階ではグループینگケアの一環として、数人のご利用者と職員で近くのスーパーへ買い物をしに外出をしています。買ってきたものでティータイムの準備。甘いものの前では、自然と笑顔が多くなります。



お天気の良い日でとても暖かく、施設で咲いているツツジを見ると「凄く綺麗です。それに風が気持ちいいね」と季節を感じていただけました。また、歩く通行人の方に笑顔で手を振る様子もありました。オリンピックへ到着すると、積極的に商品を選ばれ、「早くみんなでコーヒーが飲みたいね」と終始笑顔で、とても喜んで頂けました。



コラム Que Sera, Sera ケセラセラ



施設長の堀内です

昨年4月1日に施設長に着任後、早いもので1年が経過しました。ご利用者様、ご家族様、スタッフのおかげで何とか大きな事故なくしております。ありがとうございます。

さて、ご家族様にお時間をいただき、老健のリスク説明及び管理面のお話をさせていただいておりますが、その中でご利用者様の平均年齢は89歳、100歳以上が4名いらっしゃるとう伝えしますと驚かれる方もおられます。100歳以上の方は百寿者と呼ばれますが、日本では2020年に8万人を超え、2021年9月には8万6510人となり51年連続で過去最多を更新しています。慶応大学等の研究によると、百寿者は他の高齢者と比べて動脈硬化や糖尿病、認知症などの有病率が低く、よく運動する習慣があり、心臓が丈夫でしっかり食べられるとのこと。この所見を一般の人の健康増進につなげるためにはどのような生活習慣・行動をすればいいの、少し手前の年代の分析が必要なため85～99歳の調査をしているとのこと。まさに当施設のご利用者様にドンピシャに当てはまります。

ここで当施設での取り組みをご紹介します。現役世代は年に1～2回健診を受けておりますが、老健では通常体調に問題がなければ検査をする機会はありません。当施設ではご利用者様の誕生日に合わせて一般血液検査を行ない、何か問題のあるご利用者様には3～6か月で検査を計画するケースもあります。施設の医療介入を超える状況の場合は病院へ受診していただくこともあります。この取り組みは非常に大事で、体調不良で血液検査をした際に比較し、より客観的に状態を説明できます。



一般的に高齢者は1年で1%腎機能が低下する、肝臓の重量が10～30%低下すると言われていますがご利用者様のデータを見てみるとそうではないのではとも思います。

ほんの小さな取り組みで大学の研究に張り合う気はさらさらありませんが、何かしら世の中に価値を提供すべく汗をかいていきたいと考えております。